

iPad を用いた新たな認知機能検査の開発

Development of a new cognitive function test

グループ紹介

研究代表者：山口 修平 (医学部・教授), 塩飽 邦憲 (医学部・教授)
小野田 慶一 (医学部・助教)

Leader : Shuhei Yamaguchi (Professor, Faculty of Medicine)
Kuninori Shiwaku (Professor, Faculty of Medicine)
Keiichi Onoda (Assistant Professor, Faculty of Medicine)

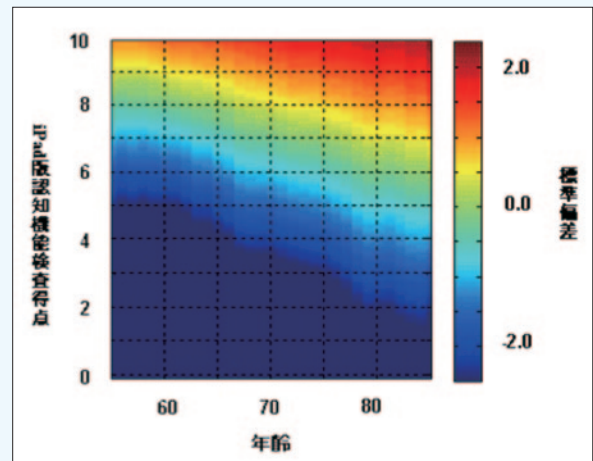
概要

このプロジェクトでは、iPadを用いた新しい認知機能スクリーニング検査の開発を行っています。この新たな検査を用いることにより、認知症の早期発見を目指しています。地域の住民健診でこの検査を運用し、認知症を早期発見し、地域医療に貢献できるように取り組んでいます。

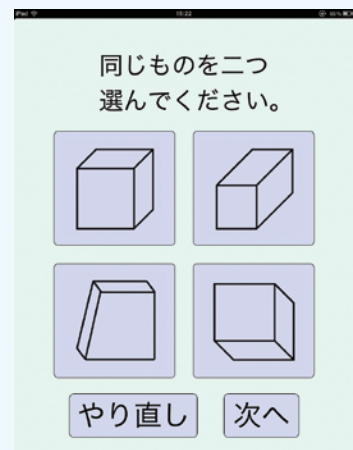
The project develops a new screening test of cognitive function designed to work as an iPad application. Our goal is early detection of dementia using this new test. We have extensively performed the test on the people attending medical checks in local communities in order to contribute to the health of people living in local areas by early detection of dementia.

特色 研究成果 今後の展望

高齢化の著しい地域の活力を維持するためには、認知症を早期に発見し、その症状進行を阻止するための適切な医療及び支援を医療機関・行政・地域住民が連携して提供する必要があります。認知機能評価の検査は検査者との対面式がほとんどであり、住民の方の自己チェックや地域の住民健診でそれらを行うことはできませんでした。我々のグループでは、時と場所を選ばず、短時間で施行できる認知機能検査を開発しています。高齢者にも優しいタッチスクリーン機能に加え、価格と普及率からiPadをそのプラットフォームに選びました。認知症で低下する機能を反映した10問の問題に回答してもらい、1問1点で得点を出します。現在、健常高齢者とアルツハイマー型認知症の患者さんを80%以上の精度で区別できます。今後、さらにデータを蓄積し、年齢ごとの正確な判定基準を作成する予定です。こうして作成したiPad版認知機能検査を住民健診で運用することにより、認知症の早期発見とそのフォローのシステム構築を目指しています。



各年齢における得点分布
緑が平均得点を示し、青で境界、濃い青で認知機能低下を示す



iPad版 脳機能評価 & トレーニング